

2 運転事故に関する事項

2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

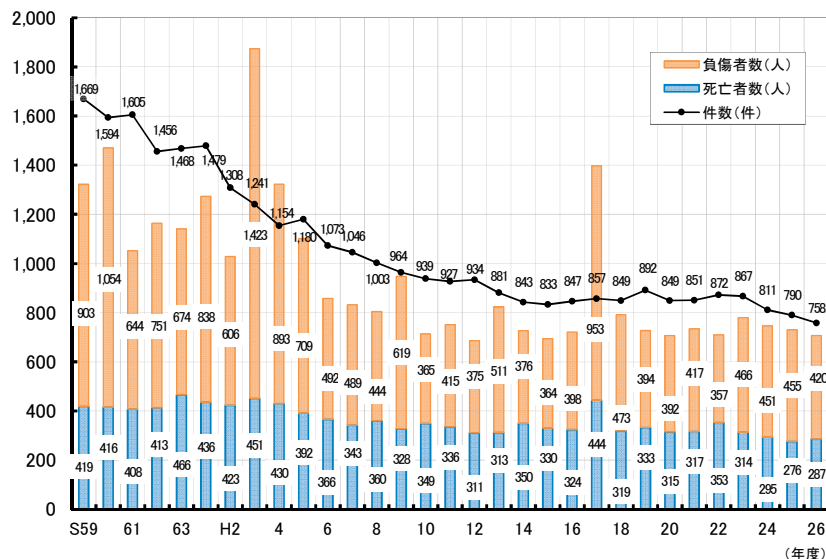
○鉄軌道における運転事故¹⁰件数は、長期的には減少傾向にあり、平成13年度からは800件台で推移していましたが、平成26年度は、758件で対前年度32件(4.1%)減でした。

○平成26年度に発生した運転事故による死亡者数は、287人で対前年度11人(4.0%)増で、近年はほぼ横ばいとなっています。

○また、運転事故による死傷者数は、707人で対前年度24人(3.3%)減でした。この中には、(4)に記載する主な事故の死傷者80人が含まれています。運転事故による死傷者数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。JR西日本福知山線列車脱線事故が発生した平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故が発生した年度では死傷者数が多くなっています。

○なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故¹¹件数は、平成26年度に発生した運転事故758件のうち13件(1.7%)でした。

図5: 運転事故の件数及び死傷者数の推移



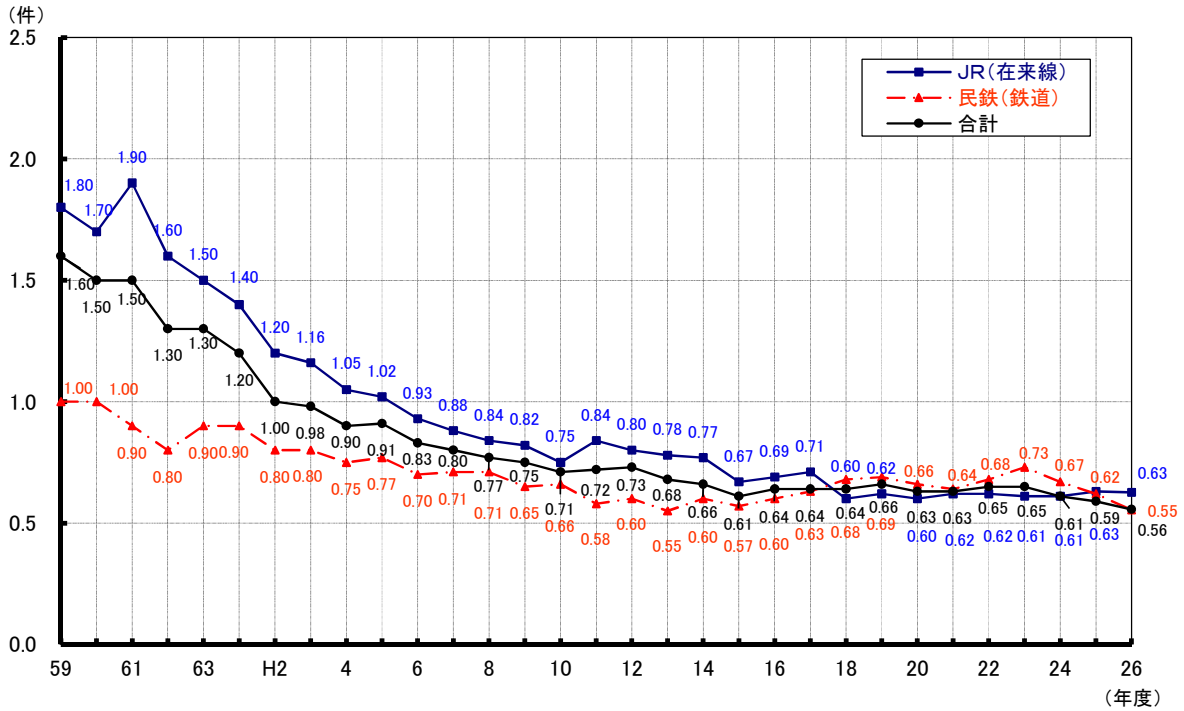
¹⁰ 運転事故の種類については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。なお、自殺を直接原因とするものは、人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故として国へ報告されているとみられます。

¹¹ 運輸安全委員会が調査対象とする運転事故は、鉄道における列車衝突事故、列車脱線事故及び列車火災事故、その他の運転事故であって、5人以上の死傷者を生じたもの、乗客、乗務員等に死亡者を生じたもの等です。詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html> をご覧ください。

(2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。平成13年度からは0.6件台で推移しており、平成26年度は0.56件でした。

図6: 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移



※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計である。

(3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

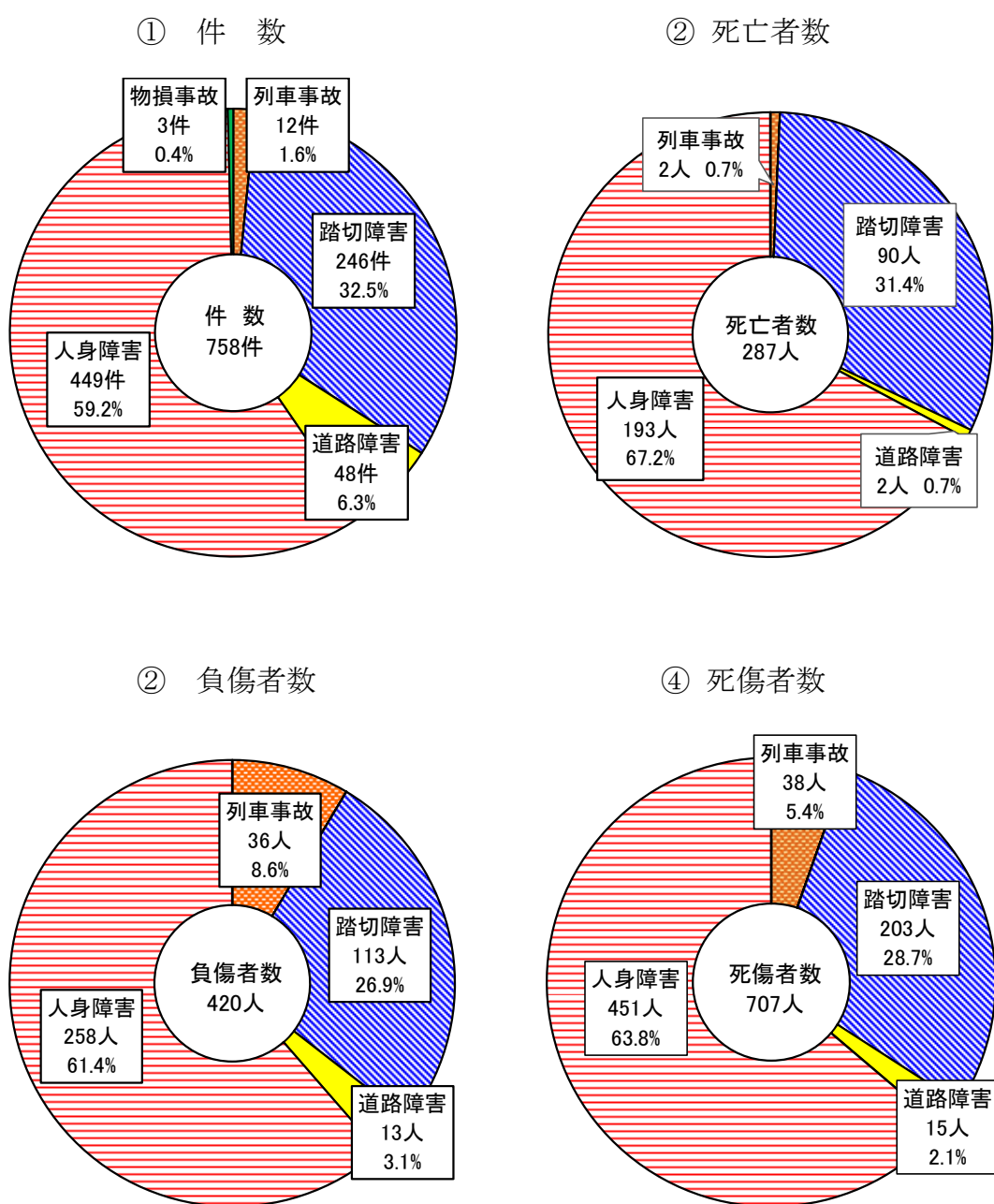
○平成26年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が449件(59.2%)で対前年度28件(6.7%)増、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が246件(32.5%)で同42件(14.6%)減、路面電車と自動車等が道路上で接触するなどの道路障害事故が48件(6.3%)で対前年度7件(12.7%)減となっています。列車事故¹²は12件(1.6%)で対前年度5件(29.4%)減でした。

○身体障害者の方に係る運転事故は、9件(視覚障害者の方の事故が2件、聴覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が5件)でした。

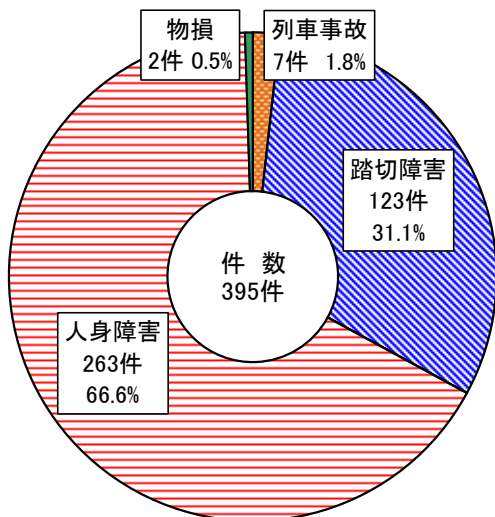
¹² 「列車事故」とは、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。))及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

- 平成26年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり287人で、その内訳は、人身障害事故によるものが193人(67.2%)で対前年度10人(5.5%)増、踏切障害事故によるものが90人(31.4%)で同3人(3.2%)減となっています。
- 平成26年度に発生した踏切事故件数は、踏切障害事故246件のほかに、踏切障害に伴う列車脱線事故が2件あったため、248件(32.7%)でした。
- 平成26年度に新幹線において発生した運転事故は、ありませんでした。

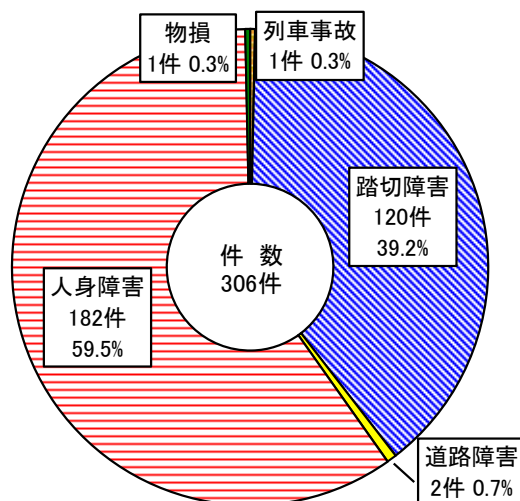
図7: 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成26年度)



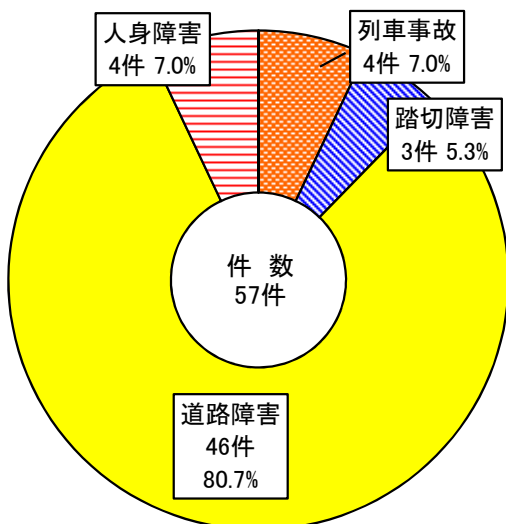
⑤ JR(在来線)の件数



⑥ 民鉄(鉄道)の件数



⑦ 民鉄(軌道)の件数



(4) 平成26年度における主な事故の発生状況

○平成26年度の主な事故(乗客乗務員に死亡者又は5人以上の死傷者が発生した事故)は、次のとおりです。

表3：主な事故の発生状況（平成26年度）

年月日	事業者	場所	事故種類	死亡	負傷	脱線両数	概要
H26 4.22	鹿児島市交通局	唐湊線 都通停留場～中洲 通停留場間 (鹿児島県鹿児島市)	車両脱線	0	6	1	路面電車と並走していた路線バスが急に軌道敷内に進入し、路面電車と衝突した。これにより路面電車の前台車2軸が脱線した。
H26 6.21	JR九州	指宿枕崎線 生見駅～薩摩今 和泉駅間 (鹿児島県指宿市)	列車脱線	0	18	1	列車走行中、約60m手前で線路内を支障している木を認めたため、非常ブレーキを使用した。流入していた木及び土砂に乗り上げた。これにより1両目前台車2軸が脱線した。
H26 7.11	りゅうてつ 流鉄	流山線 小金城趾駅～幸谷 駅間 (千葉県松戸市)	列車脱線	2	5	1	列車走行中、前方の踏切道に進入してくる乗用車を認めたため、非常ブレーキを使用した。これにより1両目前台車2軸が脱線した。
H26 11.21	長崎電気軌道	本線 長崎駅前停留場～ 八千代町停留場間 (長崎県長崎市)	車両脱線	0	5	1	路面電車と同一方向に進行していた大型トラックが約10m前方の軌道敷内に進入するのを認めたため、非常ブレーキを使用した。これにより路面電車の前台車1軸が脱線した。
H27 2.13	JR西日本	山陽線 西阿知駅～新倉敷 駅間 (岡山県倉敷市)	踏切障害	0	44	0	列車走行中、前方の踏切道内で、トラックが上下線を支障しているのを認めたため、非常ブレーキを使用した。衝突した。

2.2 列車事故の発生状況

○平成26年度に発生した列車事故件数は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の1.6%に当たる12件で対前年度5件(29.4%)減でした。列車事故による死亡者は2人で対前年度2人増、負傷者は36人で同64人(64.0%)減でした。この中には、2.1(4)に記述した平成26年4月22日の鹿児島市交通局唐湊線車両脱線事故による負傷者6人、平成26年6月21日のJR九州指宿枕崎線列車脱線事故による負傷者18人、平成26年7月11日の流鉄流山線列車脱線事故(踏切障害に伴うもの)による死亡者2人と負傷者5人及び平成26年11月21日の長崎電気軌道本線車両脱線事故による負傷者5人が含まれています。

図8: 列車事故の件数及び死傷者数の推移

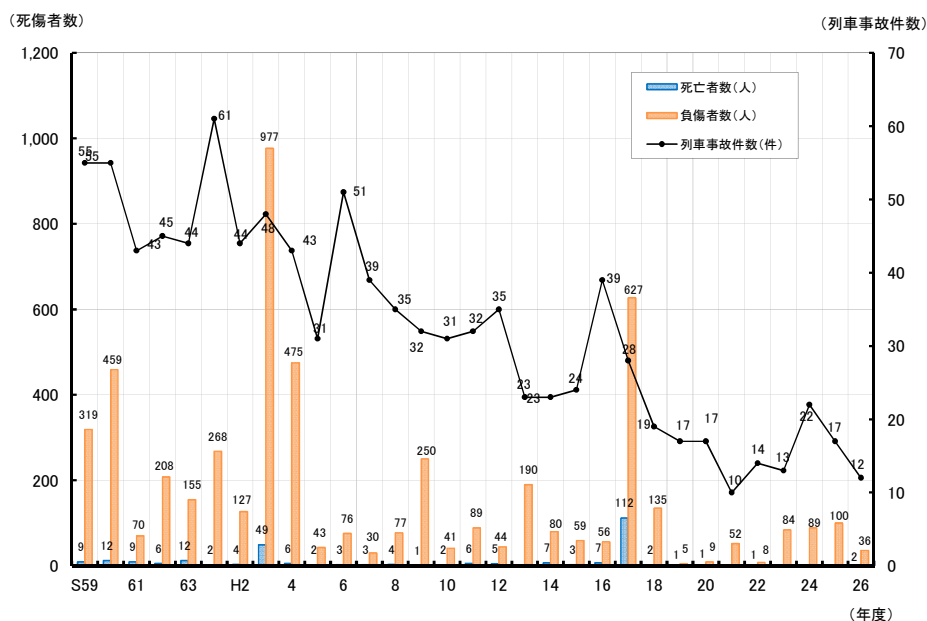
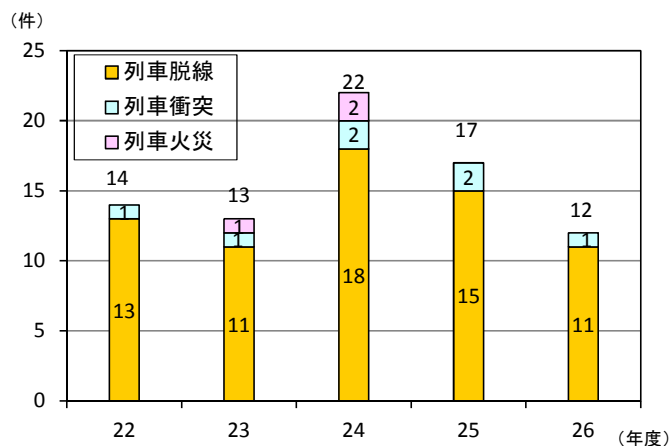


図9: 列車事故の件数の内訳(過去5年間)

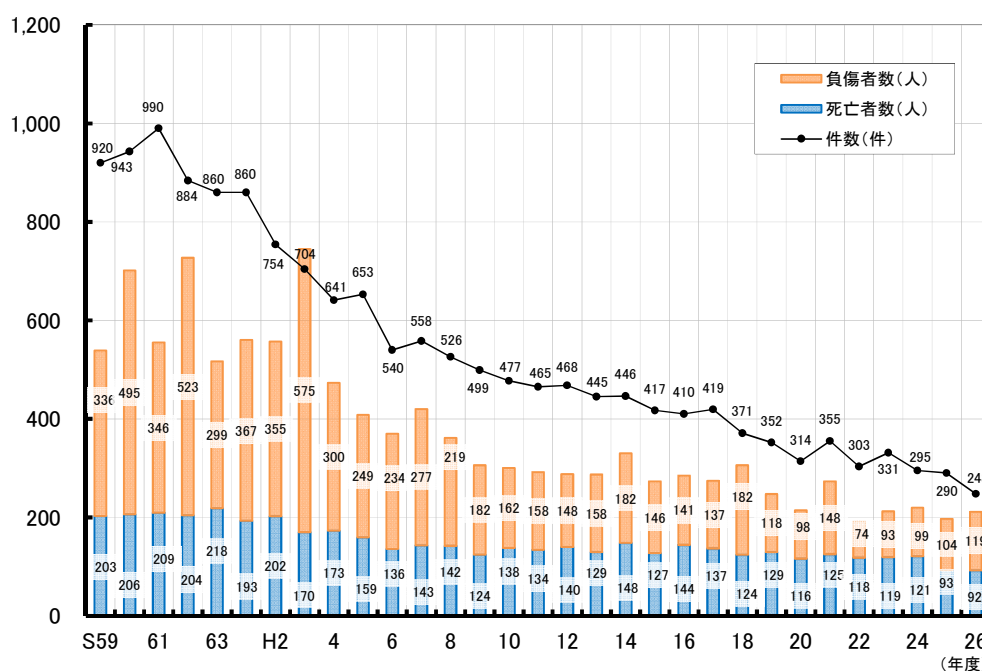


2.3 踏切事故の発生状況

(1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成26年度に発生した踏切事故は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の32.7%に当たる248件で対前年度42件(14.5%)減、踏切事故による死亡者数は92人で同1人(1.1%)減、死傷者数は211人で同14人(7.1%)増でした。
- 身体障害者の方に係る踏切事故は、1件(肢体不自由の方が第1種踏切道で1件)でした。

図10: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移

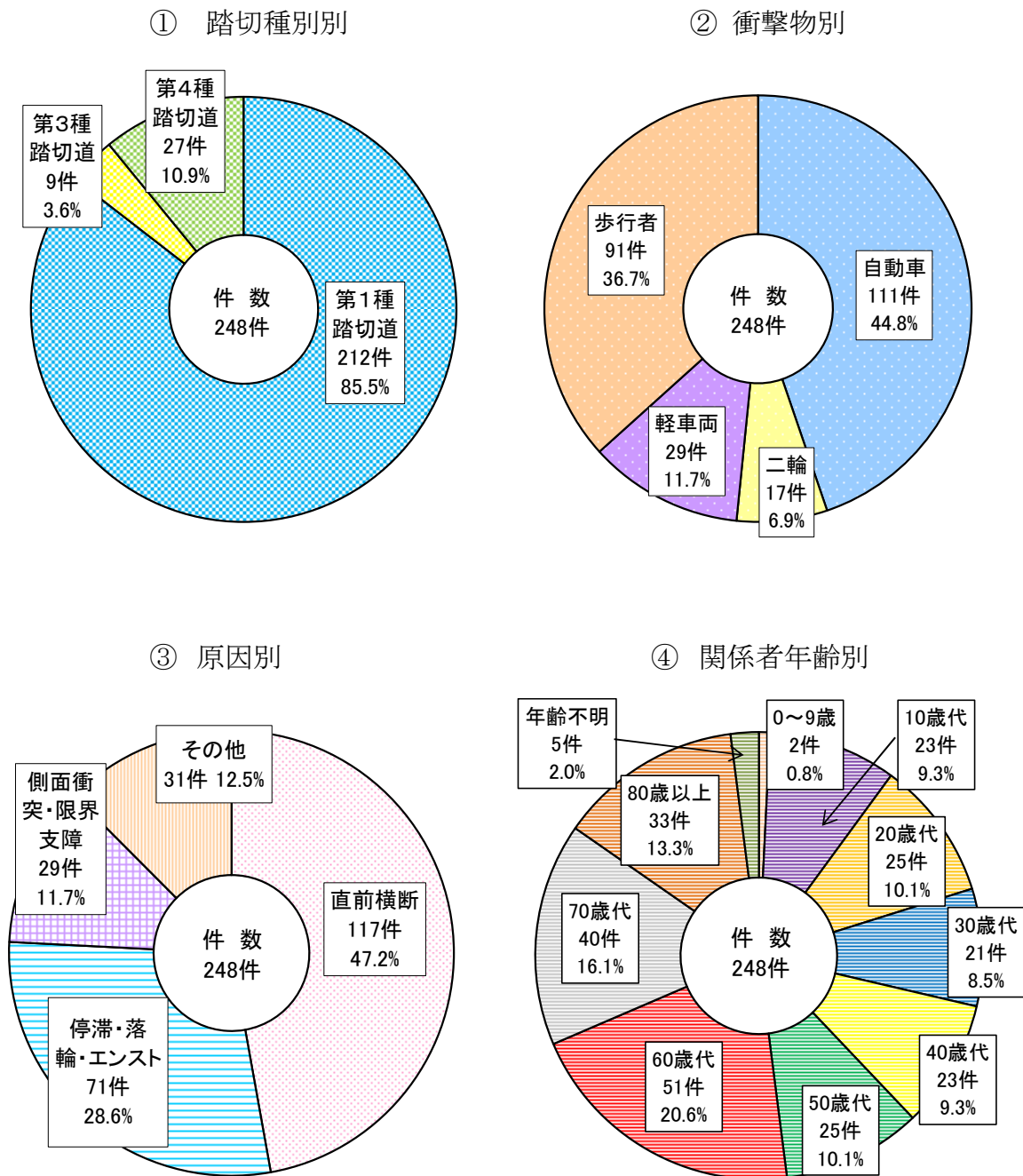


(2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故件数等

- 平成26年度に発生した踏切事故248件の踏切種別別¹³の内訳は、第1種踏切道212件(85.5%)、第3種踏切道9件(3.6%)、第4種踏切道27件(10.9%)となっています。
- 衝撃物別の内訳は、自動車111件(44.8%)、二輪17件(6.9%)、自転車などの軽車両29件(11.7%)、歩行者91件(36.7%)となっています。
- 原因別の内訳は、直前横断117件(47.2%)、落輪・エンスト・停滞71件(28.6%)、側面衝撃・限界支障29件(11.7%)、その他31件(12.5%)となっています。

¹³ 踏切種別には第1種踏切道、第2種踏切道、第3種踏切道、第4種踏切道があります。詳細については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。

図11：踏切種別別、衝撃物別及び原因別の踏切事故件数(平成26年度)



側面衝撃・限界支障:自動車等が通過中の列車等の側面に衝突したもの及び自動車等が列車等と接触する限界を誤って支障し停止していたため、列車等が接触したもの

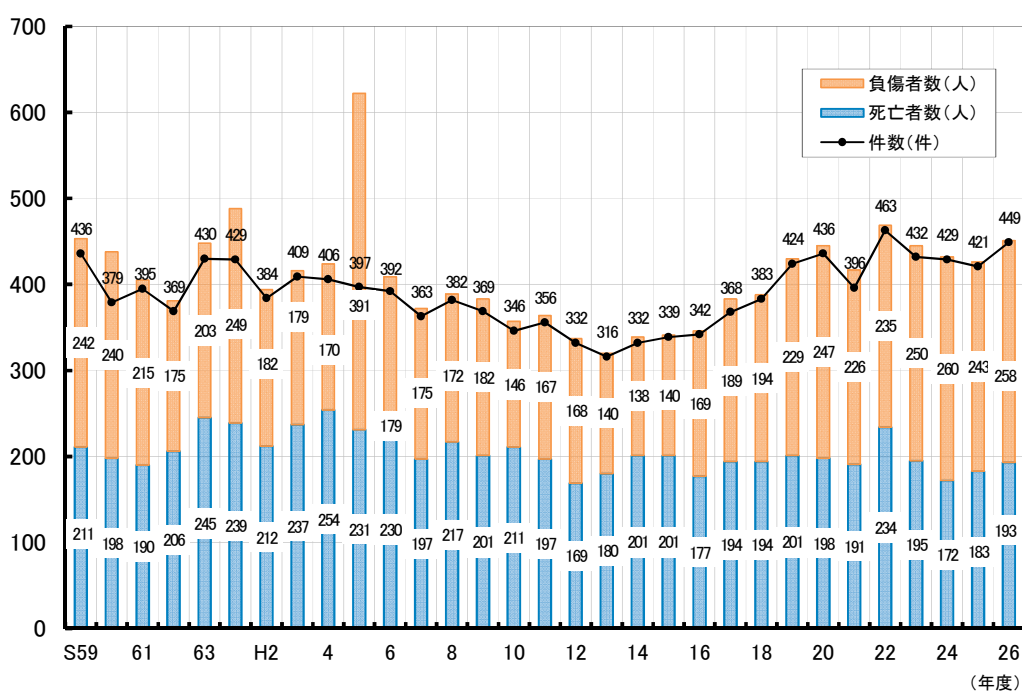
停滞・落輪・エンスト:自動車等が落輪、エンスト、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの

2.4 人身障害事故の発生状況

(1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成26年度に発生した人身障害事故は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の59.2%に当たる449件で対前年度28件(6.7%)増、人身障害事故による死亡者は193人で同10人(5.5%)増、死傷者は451人で同25人(5.9%)増でした。
- 身体障害者の方が死傷した人身障害事故は8件(視覚障害者の方の事故が2件、聴覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が4件)でした。

図12: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移



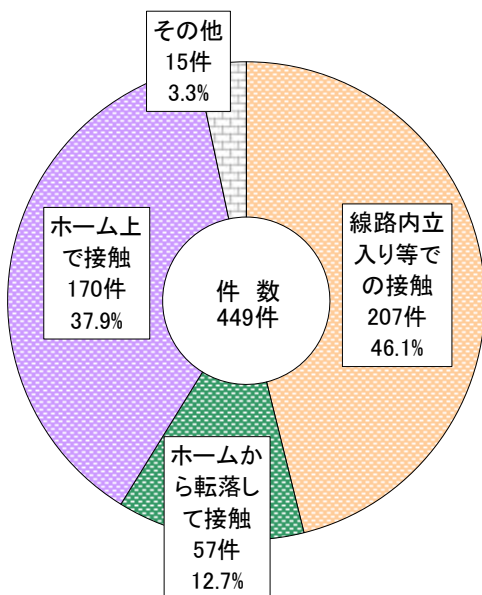
(2) 原因別の人身障害事故件数等

- 人身障害事故の原因別の内訳は、公衆等が無断で線路内に立ち入る等して列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)が207件(46.1%)で対前年度18件(9.5%)増、これによる死亡者数は156人で同4人(2.6%)増でした。「線路内立入り等での接触」については、自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが人身障害事故として国へ報告されているとみられます。
- 旅客等がプラットフォームから転落したことにより列車等と接触したもの(ホームから転落して接触)は57件(12.7%)で対前年度5件(9.6%)増、これによる死亡者数は24人で同3人(14.3%)増でした。

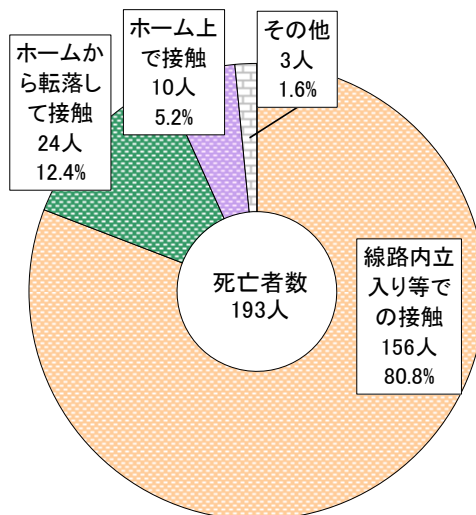
- プラットフォーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)は170件(37.9%)で対前年度1件(0.6%)増、これによる死者数は10人で前年度と同数でした。
- 乗降口の扉に手荷物等を挟んだまま列車が出発して旅客が負傷したものなど鉄道係員の取扱い等によるものは15件でした。

図13:原因別の人身障害事故の件数及び死傷者数(平成26年度)

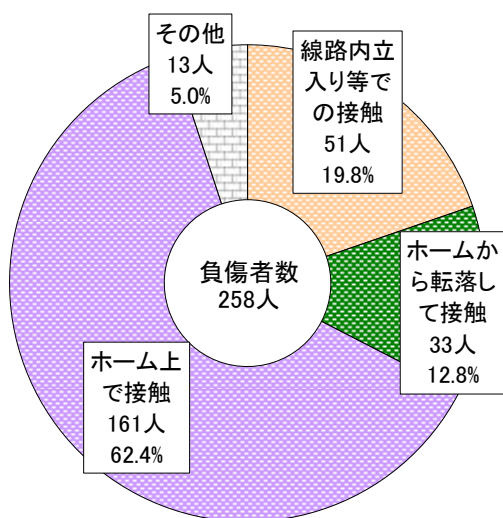
① 件数



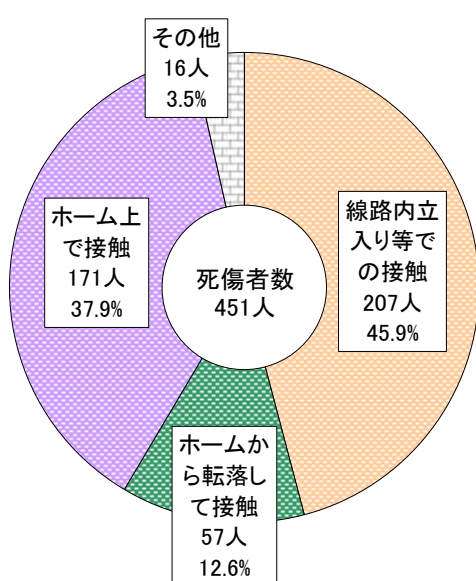
② 死者数



③ 負傷者数



④ 死傷者数



○「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」は227件で人身障害事故件数の50.6%を占めています。

図14:原因別の人身障害事故件数の推移

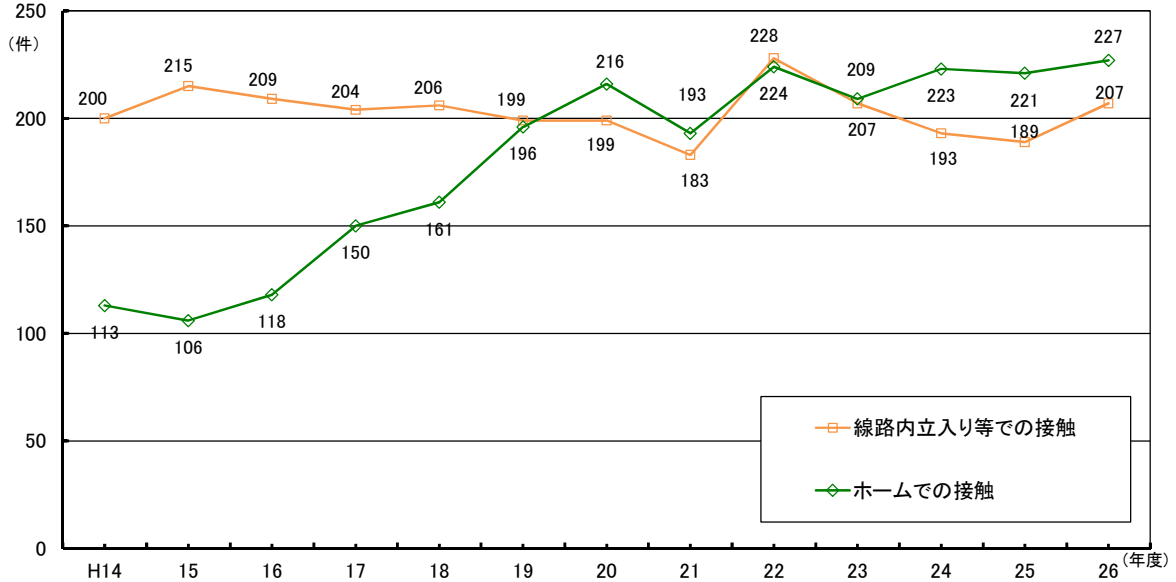
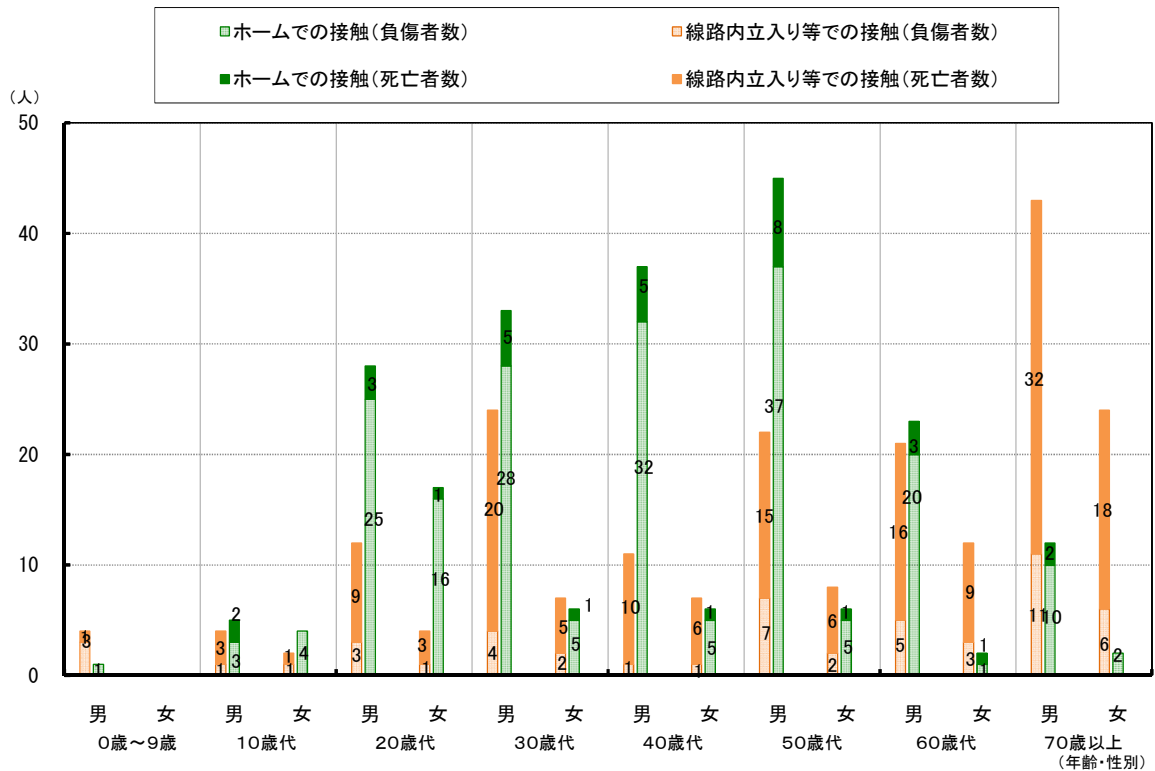


図15:人身障害事故による死傷者数の年齢別人数



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

2.5 事業者区別の運転事故件数

○事業者区別の運転事故件数は、表4のとおりです。

表4:事業者区別の運転事故件数(平成26年度)

(件)

事故種類	列車 衝突	列車 脱線	列車 火災	踏切 障害	道路 障害	人身 障害	物損	合計
事業者区分								
JR(在来線)	1	6		123		263	2	395
JR(新幹線)								0
民鉄等		1		120	3	182	1	307
大手民鉄				66		117	1	184
公営地下鉄等						43		43
新交通・モノレール					1			1
中小民鉄		1		54	2	22		79
路面電車		4		3	45	4		56
合計	1	11		246	48	449	3	758
地域鉄道【再掲】		3		51	43	15		112
地域鉄道(鉄道)		1		48	2	12		63
地域鉄道(軌道)		2		3	41	3		49

※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄(株)を除く15社です。

※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄(株)を含みます。

※3 「中小民鉄」は、準大手鉄道事業者を含みます。

※4 「地域鉄道」は、脚注9をご覧ください。